

令和8年度 授業改善推進プラン(数学)

台東区立桜橋中学校

学年	児童・生徒の実態を踏まえた課題	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
1年	・授業は意欲的に取り組んでいるが、継続的な学習が不十分であり、内容の定着度が低い。 ・分数の計算に苦手意識をもっている生徒が多い。 ・速さや割合などの単位にもとづく式の意味を意識していない生徒が多い。	・正負の数、文字式の基礎的な計算を身につける。 ・数学を活用して論理的に考え、自分の考えを数学的に表現する力。 ・数学のよさを実感し、粘り強く問題解決に取り組む態度。	・单元ごとに確認テストを行い、学習状況を把握する。 ・学力向上推進ティーチャーと連携し、生徒の理解度に応じた授業づくり。 ・生徒が身近な事象を数学的に捉え、問題を解決する活動を取り入れる。
2年	・授業内では理解しているが家庭学習などの継続的な学習ができないため定着に不安がある。計算問題や基礎的な知識問題ができていない生徒がいる。 ・代数学・解析学分野で目標値を上回っているものがほとんどない。	・反復練習での基礎的・基本的な計算力の向上や計算の原理の定着。 ・筋道を立てて考え、問題解決を実行する学習への指導や思考力・判断力・表現力等の育成のためにも、生徒自身の考えや説明を言語化して、理解を深めていく力。 ・数学的活動に集中し、粘り強く課題解決に向かう姿勢。	・定期的に小テストや单元テストを通じて学習状況の把握をしていく。 ・立式からどのように計算したのか途中の計算過程を必ず書かせることによって、計算のルールを把握させる。 ・「個人思考2分→対話2分→解説」のような短いサイクルでメリハリをつけ、集中力の途切れを防ぐ。
3年	・授業内では理解しているが、自ら演習を重ねる機会が乏しく、継続的な学習が不足している。 ・自分で筋道を立てて説明したり論証したりすることに苦手意識をもつ生徒が多い。 ・代数学、解析学、幾何学、統計学分野で目標値を上回っているものがほとんどない。	・反復練習を重ね、確実に計算力を身に付けさせ、計算の原理や仕組みを理解させる。 ・授業の中で、自ら考え、学び合い、生徒自身の考えを言語化して、理解を深める力を身に付けさせる。 ・各々の分野の基本を定着させ、单元間や他分野へ応用する力。	・小テストや单元テストを通じて、定着度を測り、個に応じた指導をしていく。 ・式の計算において、途中式や考え方などを記述させ、筋道を立てて考える力を身に付けさせる。 ・学力向上推進ティーチャーと連携し、生徒の理解度に応じた授業づくりを進める。